

果樹病虫害発生予察調査結果（8／25調査分）
（三条、加茂、田上地域）

8月25日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共通）

- 猛暑と乾燥が続いており、ハダニ類の発生が多くなっています。薬剤防除と併せ、耕種的防除として9月上中旬頃までに主幹や主枝基部に古布や古新聞を巻き付けて12～1月に外すバンド誘殺を行い、越冬数を減少させましょう。バンド誘殺はカイガラムシ類の越冬数減少にも効果的です。
- ナシヒメシンクイの誘殺数は多く、モモ新梢の芯折れも確認されています。例年、9月上旬が誘殺ピークとなり、防除時期でもあります。収穫期が近い品種へのドリフトに注意しながら防除を実施しましょう。

（ナシ）

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- セイヨウナシ褐色斑点病は、新梢先端部を中心に増加傾向です。また、前年にごま色斑点病が発生した園地では今後の発生に注意が必要です。発病が増加する場合は薬剤散布を実施するとともに、ほうき枝となる勢いのある徒長枝は8月中にせん除しましょう。
- 黒星病は葉での発病が確認されています。今後、気温が低下すると発生が拡大しやすくなることから、り病葉・り病果を確認した場合は早期に除去し、感染拡大を防ぎましょう。

（モモ）

調査地点ごとに5新梢を調査しました。

- せん孔細菌病は全ての地点で葉での発病が確認されています。翌春の春型枝病斑の発生を抑制するために、収穫後防除を確実に実施しましょう。

- 今回調査ではカイガラムシ類による被害は確認されませんでした
が、ふ化が確認され、被害が心配な場合は防除実施を検討しまし
よう。

(ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房を調査しました。

- 一部でチャノキイロアザミウマによる被害が確認されています。
9月中旬頃まで果実加害が続くので、適宜防除を実施しましょう。
- 今回調査で病害は確認されませんでした。褐斑病やべと病は早
期落葉につながるのので収穫後防除や、り病部位の除去で被害を防
ぎましょう。

※今後も厳しい残暑が続くと予想されています。作業中の熱中症に
も注意し、十分な水分補給等を行ってください。

※高温および強烈な日射が続くことから、果実や主枝の日焼けが起
こりやすくなっています。主枝基部の徒長枝を適度に残すことで日
陰ができ、日焼けを抑制できることから、新梢整理は通風等が確保
できる程度に留めましょう。

◇ 次回調査は9月8日(金)です。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020